

# 広島新庄に甲子園の切符



優勝を決めマウンドにかけ寄る部員たち

第103回全国高校野球選手権広島大会は8月1日、尾道市のしまなみ球場で決勝が行われ、広島新庄が祇園北に快勝。出場86チームの頂点に立った。

これで広島新庄は、秋から広島県内で負けなしのまま、5年ぶり3回目の栄冠を手にした。また、甲子園大会は創部史上初の春夏連続出場となる。

采配を振る宇多村聡監督は「頼もしい選手たち。ふだんの力が出せばと思いつつ決勝を見守った。甲子園でも一戦一戦、広島県の代表として力を尽くす」と語った。

全国選手権大会は8月9日に開幕し、広島新庄は大会2日目第2試合、横浜(神奈川県)との初戦に挑む。

## 5年ぶり3回目の夢舞台

### 第103回全国高校野球選手権 広島大会での戦績

2回戦	7月18日㊿	みよしきんさいスタジアム	16	-	4	舟入 (7回コールド)
3回戦	7月20日㊿	エブリー福山市民球場	3	-	0	宮島工業
4回戦	7月24日⊕	鶴岡一人記念球場	7	-	0	安芸南 (7回コールド)
準々決勝	7月27日㊿	しまなみ球場	6	-	2	瀬戸内
準決勝	7月30日⊕	しまなみ球場	8	-	7	西条農業 (延長12回)
決勝	8月1日㊿	しまなみ球場	12	-	0	祇園北

8月1日◎ 決勝 (しまなみ球場)

祇園北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広島新庄	5	1	0	2	1	0	2	1	×	12



7回無失点と好投した西井

イダーで強打の祇園北打線を翻弄。一回表に2安打を許すも、内野陣が重盗を落ち着いて処理し失点を防ぐと、その後は六回まで圧巻のパーフェクトピッチング。八回からマウンドを引き継いだ2番手秋山も1安打に抑え、ウイニングボールを捕手北田のミットに収めた。両左腕の3安打完封リレーで祇園北を圧倒した。

試合後、主将の大可は「あの舞台でもう一度戦えることに喜びを感じる。緊張はすると思うが、全員で野球を楽しんで、悔いのない夏にしたい」と話した。

花田淳さん  
(花田選手の父)

この夏を通じて、トーナメントを勝ち上がっていくことの厳しさを感じた。特に準決勝では苦しい展開だったが、応援する私たちにも力を与えてくれた逆転劇。チーム全員の力で得た結果だと思う。

甲子園でも広島県の代表として胸を張って、ケガのないよう、そして1つでも上に行ってほしい。

# 強打の祇園北を完封リレー

気温30℃を超えたしまなみ球場で、広島新庄が貫禄を見せた。準決勝の西条農業戦、延長十二回サヨナラ勝ちの勢いをそのままに試合の主導権を握る。一回、先頭打者が四球で出塁すると、ランエンドヒットなど積極的な攻撃で祇園北を揺さぶる。2番繁光の中間や3番平田の四球などで無死満塁。4番の花田も四球を選び、押し出しで先制点を挙げた。その後内野ゴロの間に1点を追加し、6

番瀬尾、7番佐野の連続適時打でスコアボードに「5」を刻んだ。二回以降も主導権は渡さない。三塁手繁光や遊撃手瀬尾などの好守が光り、守備から作ったりズムが攻撃にも生きた。中盤四回には、4番花田(千代田中出身)の2点適時二塁打により中押し。終盤七回には1番大可の犠飛などで2点を追加、ダメ押しとなった。投げては先発の左腕西井が外角にボールを集め、キレのあるスラ



一回裏、3点目となる左適時打を放つ瀬尾

今の3年生は私の2学年下で、共に汗を流してきた仲間。「決勝まで来れば球場に応援に行ける」と初戦からネット中継で全試合応援してきた。特に準決勝、広島新庄の活躍には大きな刺激を受けた。

コロナ禍での戦いは大変だと思うが、昨年の3年生たちの想いと一緒に甲子園に持って行ってほしい。

渡部俊孝さん  
(野球部OB)